

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/-YOfQdpcUxg>

+++

MACF礼拝説教要旨

2020.10.11

「ひとつの義務と祝福」

ローマの信徒への手紙8章

8:12 それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。

8:13 肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きます。

8:14 神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

8:15 あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

8:16 この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださいます。

8:17 もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

1) ひとつの義務

パウロは、私たちにひとつの義務があると語ります。

でも、それは、いわゆる社会における競争に勝つ義務ではありません。

自分を裕福にすることでもなく、自分の思い通りに生きることでもありません。

むしろ、神の霊に導かれて生きる義務であり、神のいのちに囲まれ、守られて生かされていることに気づきつつ生きる義務です。

それを可能にしてくださるために、神は私たちを愛し、憐み、素晴らしい立場、特権を与えてくださいました。

2) 神の子

8:14 神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

とパウロは書きました。

ヨハネによる福音書の中にも

1:10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。

1:11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

1:12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によって

でもなく、神によって生まれたのである。
と教えられています。

神に生かされた存在というだけでなく「神との親子関係」の中に置かれているということに気づくことはとても大切なことです。
その関係は決して切れることがないからです。永遠的な絆がそこに生じているのです。

3) アッバ父よ

「神の子供」とされたからこそ、当時の幼児がお父さんと呼ぶときに用いた「アッバ」という言葉を使って神様に訴えたり、お願いしたりできる関係に置かれているのだとパウロは語ります。

4) キリストとの共同相続人

「親子関係」ばかりでなく、キリストとの共同相続人とされているとパウロは教えます。

神の持っているすべての宝、輝き、栄誉を私たちがキリストと一緒に受け継ぐことができるというのです。

神様のものを、私たちのものとして受け止めることができるのです。

神のものとは、どういうものかというとその御名の中に含まれている神様の心、神の属性と関係があります。神様と完全に深い絆を経験できるためのすべての素材がそこにあります。

そのヒントとして出エジプト記の記録を読みましょう。

34:5 主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。

34:6 主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、

34:7 幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。」

と書かれています、

神様そのものの性質や属性「憐み深さ、恵み豊かさ、忍耐強さ、慈しみとまことに溢れる心」が私たちのものとなるということです。

そして、イエス様の「謙遜さ」も重要な要素です。

これらのものが私たちのものとなっていく。神様の心が少しずつ、私たちのものとなり

そういう心で生きられるようになってくる。という側面と、この地上の人生が

終わったあとの永遠のいのち、永遠の安息、途絶えることのない神様との絆
それらのものがすべて、私たちのために用意されているということです。

な—んだ、そんなものより1億円の方が価値があると思う方もおられると
と思いますが、神様は私たちの心を整えて、神様の心を映し出せるように、
心の思いを神様の心の内側と同じもので満たそうとしておられるのです。
幸せな心の土台は、そこにあります。

ヤコブはこういう風に語っています。

4:2 あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れる
ことができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、
4:3 願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った
動機で願い求めるからです。

4:4 神に背いた者たち、世の友となることが、神の敵となることだとは知らないの
か。世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵になるのです。

4:5 それとも、聖書に次のように書かれているのは意味がないと思うのですか。

「神はわたしたちの内に住まわせた霊を、ねたむほどに深く愛しておられ、
4:6 もっと豊かな恵みをくださる。」それで、こう書かれています。「神は、高慢
な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる。」

4:7 だから、神に服従し、悪魔に反抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたか
ら逃げて行きます。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を
清めなさい。心の定まらない者たち、心を清めなさい。

これはパウロが語っている「肉の欲に生きるのではなく、神の霊によって生きなさい」ということの別の言い方なのだと思います。

「ひとつの義務」それは霊に満たされて生きること。神の霊にあふれて導かれ
神の霊の促しの中に成長すること。人生を自分の欲望達成の道具にしないこと。
そして、それを目指すために「神の子」「お父さんと呼べる特権」「キリストとの
共同相続人」という祝福を
神様は私たちひとりひとりに備えてくださっているのです。

そこには、この地上で心満たされて生きるためのすべての必要物も、死んでのち、
安息の中に

神との永遠の絆を味わうために必要なすべてのものも、用意され、満たされている
のです。

聖霊を心に自覚し、神に助けられ、うながされて生きているなら、その道には

神の祝福と助けがあふれているのです。

キリストの支配下に置かれていることを祝福として受け止め、そのお方に心を成長させて

いただきながら一歩ずつ前に進んでいきましょう。

++++